

アクマが笑う

欲望の主

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

昔、この世には7つの罪があった

憤怒・暴食・傲慢・色欲・強欲・怠惰・嫉妬

始皇帝はその名を関するアクマを封じ二度と世に出さんとした

しかし魑魅魍とした時代にそれは復活する

その時世界はどう動くのか

「あああああああああー！」

「もつとあそぼーよー」

「頭が高いぞ雑種」

「さあ、女の子の幸せを知りましょう」

「俺の物もお前の物も世界すら俺の物だ異論は認めん」

「さて、めんどくさいので任せます」

「始めましょうか／まっつてよー」

．．．どう動くのか

# 目次

ぷろろーぐと雑談	1
怠惰／元皇妃は語る	7

## ぶろろーぐと雑談

「宮殿内部にある一室そこにはたくさんの武器や道具が置いてありその一つの前に巨体の男が立っていた」

「グフフフ…これが無限封印／＼パンドラボックスですか。」

その箱には様々な幾何学模様があり禍々しい雰囲気醸し出している

「で・す・が私の帝具があればこんなものちよちよいのちよいと」

大臣の持つ帝具。絶対制限イレイストーン

その能力は帝具の破壊と無効化、10000年前の皇帝が自身の安全のために造った秘蔵の帝具

「グフフフさあどんなお宝が眠っているのでしょうか」

「オーブン・・・」

そこにはなにも入っていないかったのだ

「なんですか。何も入っていないじゃないですか。」

「無駄な時間でしたね、さておやつでも食べに行きますか」



人が次第に朽ちいていくように国もいずれば滅びゆく

千年栄えた帝都すらも今や腐敗し生き地獄

人のかたちをした魍魎ちみもうりようが我が物顔で跋扈ぼっこする

天が裁けぬその悪を闇の中で始末する

我ら全員、暗殺稼業

とこれが本来の物語だが、大臣が解いてしまった悪魔どもによって運命が変わってしまつた

そんな運命が変えられてしまつた者たちによる自分勝手による自分勝手の生きざま  
かくして運命はいずこへと

我ら全員、悪魔契約者

「と言った感じでいいか」

「待て待て、ツッコミどころがありすぎるんだが」

「それにしてもなんですかこの字数稼ぎのためのくだらない話は？」

「んゝまあここの作者はプロログ作るのが下手で中のところばつかストックあるしねー」

「そ、そうなんですか？というより私たちがまだだれなのかすら読者にわかってもらえてないですよ。」

「・・・いや、わかっちゃただのネタバレだし、それに？の文字数でわかるんじゃない」

「多分誰もわかりませんよ。それに私を含めて、原作で二人ほど名前すら出ておりませんし」

「・・・いちおう、マンガだとではいる」

「それにしても私たちが会話してるって変ですよ？時系列的にまだ始まってもないですのに」

「そこはあれだよ、これどこかの正義のヒーローみたいにあらすじを後付けと同じやり方だし」

「それに次回からは1000文字以上はいつています、というか1話ってほとんど感想



「とかないので大丈夫でしょう」

「おお、メタいメタい」

「それじゃあ前置きはここまでにして」

「『『『自分の気のすむままに世界をかき乱そうではないか』』』」

## 怠惰／元皇妃は語る

あらあら、いらつしやい

ふふつそんなに緊張しなくて大丈夫ですよ

ここはどこか？ですか。さあ？夢かもしれない、現実かもしれない、天国かもしれない、地獄かもしれない

まあそんなことはどうでもいいですよ

とりあえずお座りになって下さい。お茶やお菓子もありますよ

落ち着いたようですね

それでははじめましょうか。あつまたやっつてしまいましたいつもやっているの  
ついで

ああ、そんなに悪いことではありませんですよ。ただあなたは私と話をするだけそれ  
だけですよ

そうですね、まず最初にあなたは帝国についてどう思われますでしょうか

ですよ、まあいいとは思わないですよわかりますよ

今のこの国は特にひどいですよね、媚を売り、他者を蹴落とし殺し、悦楽に浸る。そ

れ以外にもありますがまあそんなところでしょうか。

貴族は優雅な暮らしを平民には粗野な生活を、男性と女性での立場の違い差別は一向になくなりませんね

泣かれてどうしたのですか？なるほどあなたの大事な人も帝国に踏みつぶされたのですね、辛かったでしょうね泣いても構いませんからね

落ち着かれましたか？辛いときは泣くのが一番です

えっ？私の話ですか。いいですけど、長いので簡略版ですが許してくださいね。では

あるところに貴族のお嬢様がいましたその娘はそれはそれは優しい娘でして、その娘には結婚相手がいました。数年が立ち二人は結婚し子供も生まれこれから国を良くしていくと頑張ろうとしました。ですが彼は死んでしまいました。ええ、革命軍全員が嫌っているあの大臣によつてね。そして彼女も殺されました、彼の後追い自殺と子供に思い込ませて

その時彼女は願いました。呪願つてしまいました

こんな国など墜ちてしまえばと、だからこそ惹かれあつてしまったのでしようね。ア  
クマにね

それからとんとん拍子で話が進み、私はそれと契約することになりました。まあやる

ことは人を墮落させるだけなので基本暇ですし。向こうに行くときは面白い人がいなければ滅多に行きませんよ

あらもう時間ですね。最後までご清聴ありがとうございました

えっ、私の名前ですか？そういえば名乗っておりませんでしたね

昔はミコって呼ばれていましたが今の名前はヨミって言います。元皇妃です

っていつちやいましたか。まあこれも一夜の夢となるでしょう目覚めたら何も覚えておりませんでしょう。さあ次はどんな人とお話ができるのでしょうか

もしかすると次のお話のお相手は画面の前にいるあなたかもしれませんよ